

ノーベル・プライズ・ダイアログ東京2025

(Nobel Prize Dialogue Tokyo 2025)

御支援のお願い

独立行政法人
日本学術振興会

「ノーベル・プライズ・ダイアログ東京2025」のための御支援のお願い

独立行政法人日本学術振興会は、ノーベル財団傘下組織として広報部門を担うノーベル・プライズ・アウトリーチABとの共催により、令和7（2025）年3月9日に「ノーベル・プライズ・ダイアログ東京2025」（英文：Nobel Prize Dialogue Tokyo 2025）を開催いたします。

「ノーベル・プライズ・ダイアログ」とは、平成24（2012）年より毎年スウェーデンにおいてノーベル賞授賞式の前日に開催されている一般向けの公開シンポジウム

「Nobel Week Dialogue」を日本学術振興会とノーベル・プライズ・アウトリーチABとの共催により、平成27（2015）年3月に、スウェーデン国外で初めて開催したものです。今回は、6回目の日本開催となります。

本会議は、日本をはじめ世界各国からノーベル賞受賞者を含む著名な研究者や有識者が一堂に会し、社会にとって重要な問題を語り合う、参加費無料の公開シンポジウムです。学生や研究者を含む広く一般の皆さまに、多岐にわたる学術・科学技術への関心・理解を幅広く深めていただき、以て学術・科学技術の振興に寄与することを目的としています。

我が国における開催は、世界の知のフロンティアを拓いたノーベル賞受賞者をはじめとする有識者との対話を通じ、参加者が学術の意義や重要性に対する理解を深めるのみならず、我が国が学術先進国として国際的な存在感を示す貴重な機会となることも大いに期待されます。

開催に必要な経費については、日本学術振興会の運営費交付金を財源とする予定ですが、なお一部に不足が見込まれることから、今般、特段の御協力をいただきたく御支援をお願い申し上げます。

御支援いただきます御資金は、「ノーベル・プライズ・ダイアログ東京2025」の準備運営等に充当し、本会議の開催を通じた我が国の学術の振興のために有益に使用させていただきますので、本会議の趣旨を御理解いただき、何卒御協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

独立行政法人日本学術振興会
理事長 杉野 剛

ノーベル・プライズ・ダイアログ東京2025
協賛金及び寄附金募集要項

1. 会議の名称

ノーベル・プライズ・ダイアログ東京2025

2. 目標額

2,300万円（経費総額115,500千円程度を想定）

3. 募集期間

令和6年4月15日から令和7年3月9日まで

4. 募集する協賛及び寄附の種類

(1)広告協賛

主催者が発行する出版物、製作物等の所定の箇所に広告を提出することによりその資金を提供する、または主催者が行う会議の広報宣伝活動に必要な資金等を提供するもの。

なお、飲食物を提供する場合、個別包装された自社製品に限るものとし、事前に保健所への届出が必要となる。

a 特別スポンサー Event Partner

協賛金の額：500万円程度

b スポンサー Supporting Organization

協賛金の額：250万円程度

(2)寄附

広告の掲載等を行わず、会議運営に必要な資金を提供するもの。金額の指定はなし。

5. 広告協賛に係る特典

(1)名称・ロゴの公表

①会議会場において名称・ロゴを掲載した看板や展示物を設置

②会議プログラムに名称・ロゴを掲載

③会議の広報印刷物（ポスター、チラシ）において名称・ロゴを掲載

※広報印刷物の発行前に協賛の申し出があった者に限る。

④会議専用ホームページにおいて名称・ロゴを掲載

⑤会議報告書に名称・ロゴを掲載

※特別スポンサーとスポンサーで掲載される名称・ロゴの大きさが異なる。

(2)会議やレセプション等への招待

会議及び主催者が主催するレセプション等に招待

※特別スポンサーとスポンサーで招待人数が異なる。

(3)会議会場における企業ブースの設置【a 特別スポンサー Event Partnerのみ】

ブース（幅3m、奥行き2m程度）をコーヒーブレイク会場に設置し、自社事業及び製品の広報並びに飲食物を含む自社製品の提供が可能。

6. 協賛金及び寄附金の使途

独立行政法人日本学術振興会（以下、「振興会」という。）が実施する「ノーベル・プライズ・ダイアログ東京2025」（以下、「本会議」という。）の準備運営及び広報宣伝の費用に充当する他、目標額を上回った場合には振興会が将来実施する関連行事の費用に充当することがある。

7. 申込み方法

協賛の申込みは別紙様式1「広告協賛申込書」、寄附の申込みは別紙様式2「寄附申込書」を下記問合せ先に郵送、もしくはスキャンしたPDFデータ（カラー）をメール添付にて送付の上、別途通知する管理口座にお振込みいただく。

8. 協賛金及び寄附金の管理方法

振興会が受領した協賛金及び寄附金は、振興会が管理する。

9. 寄附金に係る免税措置

振興会への寄附金は、特定公益増進法人に対する寄附金として、寄附（2,000円以上）が個人による場合は、所得より「寄附控除」の適用を受け、法人による場合は、「寄附金損金算入」の特例が適用され、税制上の優遇措置が認められる。

（関係法令：所得税法第78条第1項・第2項第3号、所得税法施行令第217条第1号、法人税法第37条第3項第2号及び法人税法施行令第77条第1号）

10. 個人情報の取扱について

申込書に含まれる個人情報については、「個人情報の保護に関する法律」及び本会の「保有個人情報等保護規程」に基づき厳重に管理し、申込者のデータ管理及び本会議に関する事務管理の目的の範囲内において適切に利用し、また同じ目的の範囲内においてのみ業務委託先へ提供する。

なお、寄附について、寄附者のご氏名（法人の場合は法人名）を本会議の事業報告書等に掲載させていただくことを想定。ご同意いただけない場合、寄附者のご氏名（法人の場合は法人名）の記載はしない。また、いずれの場合も連絡先等は掲載しない。

【問合せ先】

独立行政法人日本学術振興会 国際事業部 研究協力第一課

ノーベル・プライズ・ダイアログ担当

〒102-0083 東京都千代田区麴町5-3-1

TEL 03-3263-1844

Email nobelprizedialogue@jsps.go.jp

ノーベル・プライズ・ダイアログ東京2025

1 会議の名称

和文名：ノーベル・プライズ・ダイアログ東京2025

英文名：Nobel Prize Dialogue Tokyo 2025

2 主催

独立行政法人日本学術振興会

ノーベル・プライズ・アウトリーチAB（ノーベル財団傘下組織：広報担当）

後援

文部科学省、横浜市、在日スウェーデン大使館等に申請予定

3 開催日時

令和7(2025)年3月9日（日）10時00分～16時00分（予定）

開催場所

パシフィコ横浜 会議センター

4 会議の性格と目的

社会の学術・科学技術への関心・理解度を高め、学術・科学技術の振興に寄与することを目的として、若手研究者や企業関係者を含む広く一般を対象（1,000名規模）として、国内外のノーベル賞受賞者（4名程度）を含む16名程度の著名な研究者・有識者を招き、公開での講演と対話（パネルディスカッション、テーマ別分科会を含む）を行います。

5 日本開催の経緯と意義

(1) 経緯

本会議は、ノーベル・プライズ・アウトリーチAB(旧名ノーベル・メディアAB)が平成24(2012)年よりスウェーデンにおいて毎年ノーベル賞授賞式の前日に開催している一般向けの公開シンポジウムである「Nobel Week Dialogue」について、ノーベル財団から日本での開催について打診があり、その後同財団や日本政府、関係機関等との協議の結果、平成27(2015)年3月にスウェーデン国外としてははじめて、日本において日本学術振興会及びノーベル・プライズ・アウトリーチABの共催により実施いたしました。この度、令和7(2025)年3月に日本において6回目となる同シンポジウムを開催することを日本学術振興会及びノーベル・プライズ・アウトリーチABが合意し、開催することとなったものです。

(2) 日本開催および今回の会議の意義

本会議の日本開催は、日瑞間の交流の一層の深化に寄与することや日本が科学技術先進国としての国際的なプレゼンスを高める上で重要な機会となることが期待されるとともに、ノーベル賞受賞者をはじめとする著名な研究者が一堂に会し、社会一般と対話する貴重な機会となります。

6 過去の開催状況

	開催日	開催場所	テーマ	講演者数 ()うち、 ノーベル賞 受賞者数	参加者数 (海外参加国/地域・人数)
第1回	2015年 3月1日	東京国際 フォーラム	The Genetic Revolution and Its Future Impact (生命科学が拓く未来)	25名 (7名)	約800名 (42カ国/地域・約300名)
第2回	2017年 2月26日	東京国際 フォーラム	The Future of Intelligence (知の未来～人類の知が切り拓 く人工知能と未来社会～)	36名 (5名)	約1,000名 (52カ国/地域・約400名)
第3回	2018年 3月11日	パシフィコ 横浜	The Future of Food (持続可能な食の未来へ)	30名 (5名)	約1,100名 (48カ国/地域・約350名)
第4回	2019年 3月17日	パシフィコ 横浜	The Age to Come (科学が拓く明るい長寿社会)	19名 (5名)	約1,000名 (51カ国/地域・約350名)
第5回	2022年 10月23日	パシフィコ 横浜	Water Matters (水から考える持続可能な未来)	23名 (7名)	約400名 (33カ国/地域、141名)

(参考 ノーベル・ウィーク・ダイアログ：スウェーデンにて12月9日に開催)

	開催年	開催地	テーマ (日本語は仮訳)
第1回	2012年	ストックホルム	The Genetic Revolution and Its Impact on Society (遺伝学の展開と社会的インパクト)
第2回	2013年	ヨーテボリ	Exploring the Future of Energy (エネルギーの未来を切り拓く)
第3回	2014年	ストックホルム	The Age to Come (来たる高齢化)
第4回	2015年	ヨーテボリ	The Future of Intelligence (インテリジェンスの未来)
第5回	2016年	ストックホルム	Your Plate - Our Planet: The Future of Food (あなたの食卓、私たちの惑星：食べ物の未来)
第6回	2017年	ヨーテボリ	The Future of Truth (真実の未来)
第7回	2018年	ストックホルム	Water Matters (水を捉える)
第8回	2019年	ヨーテボリ	Into the unknown: uncertainty, risk and opportunity (未知の世界へー不確実性、リスク、契機)

第9回	2020年	ストックホルム	The Challenge of Learning (学びへの挑戦)
第10回	2021年	ヨーテボリ	The City of the Future (未来都市)
第11回	2022年	ストックホルム	The future of Life (生命の未来)
第12回	2023年	ヨーテボリ	The Future of Migration (移住の未来)

7 会議計画の概要

(1)会議の構成

- 1) 開会式
- 2) 基調講演
- 3) テーマ別分科会
- 4) 総括パネルディスカッション
- 5) 閉会式
- 6) レセプション（招待者のみ）

(2)題目

The Future of Life

(3)日程表（令和7(2025)年3月9日）

	プログラム案
午前	開会式 基調講演
午後	テーマ別分科会 総括パネルディスカッション 閉会式 レセプション（招待者のみ）

(4)会議使用言語

英語（日英同時通訳付き）

(5)参加予定者数

計 1,000人

(6)報告書

会議終了後に刊行し、各関係機関及び関係者に配布します。

(7)展示

協賛団体等による展示を設置することが可能です。

(8)著名な講演者

国内外のノーベル賞受賞者4名程度を含む、16名程度を講演者として招へいします。
具体的な講演者は令和6(2024)年12月頃までに決定予定です。

8 経費の調達および協賛金等を必要とする理由

本会議は国内外からノーベル賞受賞者を初めとする世界的に著名な研究者を16名程度招へいし、参加者は1,000名規模を想定しているため、相当の規模を持った会場が必要となり、

開催の準備、運営に関する経費及び会場費は総額115,500千円程度に達すると予定されま
す。

本会議は関係機関との協議の結果、スウェーデンのノーベル・プライズ・アウトリーチ
ABとの共催により開催することとなり、日本学術振興会の運営費交付金を財源として実施
する予定です。しかし、運営費交付金だけでは会議の運営が難しいというのが現状であり、
必要経費の一部を諸団体・個人の浄財からのご援助に頼らざるを得ません。会議運営に要
する予算総額の一部を協賛金等によって充当する予定であり、本会議を成功させるために、
何卒ご支援をお願いいたします。

9 所要経費概算

収入の部

収支区分	金額（千円）	備考
法人負担（運営費交付金）	92,500	
協賛金	22,500	
寄附金	500	
合計	115,500	

支出の部

収支区分	金額（千円）	備考
講演者に係る費用等	12,000	招へい費、謝金等
会場・運営等、業務委託費	61,500	会場費、広告費等
その他事務費等	42,000	Management Fee、事務費等
合計	115,500	